令和８年度

病害虫発生予察特殊報　第１号

令和８年10月30日
茨城県病害虫防除所
TEL：0299-45-8200

Fatsia japonica ringspot-associated virusによるピーマン病害の発生について

病原ウイルス名　：　Fatsia japonica ringspot-associated virus（FjRSaV）
発　生　作　物　：　ピーマン

１．発生確認の経緯および県外での発生状況

（１）令和８年９月に県内の施設栽培ピーマンほ場において、葉に退緑輪紋、褐色のえそ輪紋症状を示す株の発生を確認した(写真１～２)。
（２）茨城県農業総合センター園芸研究所により、RT-PCR 法による検定およびその増幅産物の塩基配列を検定した結果、FjRSaV の感染が確認された。
（３）本ウイルスは、2022 年に国内において、ヤツデでの発生が確認（鈴木ら、 2022）されているが、ピーマンほ場での発生が報告されたのは初めてである。

２．伝搬方法等

病原ウイルスは、*Orthotospovirus* 属に属し、アザミウマ類によって媒介されると考えられているが、媒介種については現在確認中である。

３．被害の特徴

本病は、上中位葉に退緑した輪紋や、褐色のえそ輪紋症状を呈する。発病した葉には奇形を生じることがある。

４．防除対策

（１）発病が認められた株は伝染源となるため、速やかに抜き取ってビニル袋等に入れて密封し、株を腐らせてから処分する。
（２）施設栽培では、施設開口部に防虫ネットを設置し、アザミウマ類の施設内への侵入およびハウス外への飛び出しを防止する。また、育苗時は、苗を防虫ネットでトンネル被覆する等、アザミウマ類の侵入防止を徹底する。
（３）雑草は、アザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内外の除草を徹底する。
（４）アザミウマ類に対して薬剤防除を行う場合、薬剤抵抗性の発達を防ぐために同系統薬剤の連用を避ける。

５．参考文献

・鈴木ら（2022）日本植物病理学会報 88(3)：187.



写真１　葉の退緑輪紋症状



写真２　葉のえそ輪紋症状

※写真は、鹿行農林事務所経営・普及部門提供